

4th

Fukuoka RNA commons

ゲノム編集細胞による RAS遺伝子のスプライシングの 弱点発見とがん治療への応用

演者：小林 祥久 研究員

国立がん研究センター研究所



01.31

水

16:30~17:30

馬出九大病院地区 総合研究棟1F 101号室

要旨

日本人の5人に1人が癌で亡くなります。様々な癌治療薬が目覚ましく開発されてきましたが、癌はあらゆる治療に対して薬剤耐性を獲得して次第に効かなくなることが問題です。肺癌がチロシンキナーゼ阻害剤に耐性を獲得する興味深い機序の一つに、新たな発がんドライバー遺伝子異常の獲得があります。CRISPRゲノム編集で薬剤耐性細胞モデルを構築することで、アミノ酸を変化させないため無視されがちなサイレント変異が予想外にKRAS Q61K変異の発がん性に必須であることを見つけ、最多の発がん遺伝子ファミリーRASのスプライシングに関する弱点の発見と核酸医薬による新規癌治療法の提唱へと繋がりました。現在進行中のプロジェクトについても発表させていただきます。

オンサイトのみ。発表言語は日本語です。

ご来聴希望の方は、右下QRコードより事前に参加登録をお願い致します。事前の参加登録なしで当日参加も可能ですが、席数に限りがございますので、人数把握ため事前登録をお願いしております。



九州大学 生体防御医学研究所
腫瘍防御学分野

電話番号：092-642-6295（内線6295）

メール：nojimalab-s@bioreg.kyushu-u.ac.jp

ご連絡先：野島 孝之（代理：岩井）

